

## コロナ禍の中・・・今こそ社会保障の充実 を！

### 「生保110番」 5月は九州・沖縄一斉相談会

5月29日(土)に2ヶ月に1度の定例開催である「生活保護110番」を実施しました。通常は電話での相談を受けますが、この日はチラシを見て「直接、相談がしたい」と2人が相談会場にいられました。そのうちの1人の男性は「妻と2人暮らして、それぞれ年金を受給しているが年金担保の借金があり、生活が苦しい」との相談。対応した弁護士より「現状では生活保護基準を満たしているが、まずは妻の年金を担保に借金を完済して、生活保護申請がベスト」とのアドバイスに「思い切って相談にきてよかった」と言われ、帰っていかれました。今回は5件の相談で直接、コロナの影響によるものはありません

でしたが、常日頃から悩んでいる方や困っている方を一人でも多く救えるよう、引き続き取り組んでいこうと思っています。



直接、会場にいられた方の相談をうける高木、藤本両弁護士

### 「コロナ災害 電話相談会」第2弾を実施。

### 相談件数は減少も、内容は深刻化・・・。

4月の相談会に引き続き、全国実行委員会の呼びかけに連携して、第2弾の相談会を実施しました。今回も4台の電話に弁護士・司法書士・社会福祉士・生健会・民商・地区労連など各分野の専門相談員を11名配置し対応しました。第2弾は文字通り、47都道府県197回線と全国一斉の相談会となりました。全体で1,125件の相談電話があり、第1弾の5009件に比べると大幅に少なくなりましたが、これは前회가10万円の特別給付金や持続化給付金の報道が出た直後で制度への質問や

その他の不安などを反映した結果だったと思われます。九州・沖縄ブロックでも今回は各地域社保協を中心に取られました。北九州社保協では17時までの対応でしたが、15件の相談電話がありました。全国同様、前回より件数は大幅に減りましたがこの間、国をはじめ地方自治体でも支援策が具体化し内容が明らかになった事も影響していると考えられます。しかし一方で、相談内容から「状況は深刻化」していると感じられました。「すでに給付金や貸付、各種減免制度(支払猶予等を含む)を利用しているがそれでも、生活がままならない。」「特別定額給付金(10万)を申請しているが、早く手元に



届かないと困る。」といったケースが見受けられました。国や自治体の支援策は不十分な部分がまだまだ多いですが、とにかくスピード感を持って対応してほしいと改

めて思いました。(第3弾は8/8予定)集計結果は裏へ

「コロナ禍」の「生活」に「対応」する「ための」「相談」先「を」「探す」

## 1. 開催概要

【日時】	6月6日(土) 10時~17時
【電話回線】	4回線
【相談員数】	11名
【相談件数】	15件(今回は2日間で245件)
【年代】	
30代	1件
50代	2件
60代	2件
70代~	1件
聞き取りなし	9件
【性別】	
男性	11件
女性	4件
【職業・地位別相談件数】	
正社員	2件
パート・アルバイト	1件
自営業	1件
無職	2件
その他	2件
聞き取りなし	7件
【月収】	
~20万円	1件
聞き取りなし	14件
【分野別相談件数】	
生活費問題	3件
(うち生活保護相談)	1件(再掲)
労働問題	3件
健康問題	1件
その他	8件

## 2. 【相談内容】\*各項目より主だったものを抜粋(生活費問題)

○70歳。男性。元バス運転手。現在は旅行会社で働いているが2月から仕事がストップ。収入がゼロに。

年金は月8万。うち家賃で4万。住宅確保給付金の申請をしようと思ったが書類が多くて大変。特別定額給付金

は支給さえても滞納している家賃で消えて行く。市営住宅への転居も考え申請しているが抽選に当たらない。役所に相談するも対応が冷たい。公共料金、電話代は猶予中。国保は猶予申請中。この先が不安。(福岡)

⇒傷病手当の申請と会社が手続き未であれば、持続化給付金申請の申し入れをとアドバイス

○30歳。男性。正社員。仕事は継続できているが給与が減った。親と妹の4人家族。親と妹も働いていたが収入がゼロになった。貸付金があったがこれも底をつく。生活保護の申請等は可能か?(宮崎)

⇒県外からの相談にて当該の社保協へ即、対応依頼。

○持続化給付金、10万円特別給付金支給を申請しているが、早く手元に届かないと生活が困る。

(労働問題)

○コロナの影響で会社を退職。(解雇?ではない)離職票を会社が出してくれない。

⇒会社に催促を。ハローワークにも相談を。

(健康問題)

○北九州市内在住者。コロナ第2波の影響で怖くて、外に出れない。この生活に耐えられない。一人暮らしで不安。⇒話を聞いてもらって少し気が楽になったと。

(その他)

○マンションの理事会が三密状態で困っている。

○夜の接待を伴う飲食業(スナック?)経営の女性。自粛で店が開けられない為、顧客から頻りに連絡があり。店外での交際を迫られて困っている。

⇒すぐに警察の生活安全課へ相談をとアドバイス。

「話を聞いてもらって元気になった」と。

## 3. 【アンケート結果】

\* 国の施策を評価するか

まったく評価しない 1 件

評価しない 2 件

聞き取りなし 12 件

\* 国に望む施策や意見

○対応が遅く、支援も行き届いていない。

○コロナを早く収束させてほしい。